

# 2つ以上の言葉の狭間で生きる子どもたち

母語

日本語

2つ以上の言語環境で生きる子どもたちが理解力・思考力・表現力を不足なく学習できるよう、ひとりひとりの言語習得状況を考慮した教育について考える国際シンポジウムです。

同時通訳対応: 英語・韓国語・スペイン語(要事前申込)

託児サービス: 無料(要事前申込)

参加費:  
**無料**  
(事前申込不要)

8月27日(木)

18:00 ~ 21:00

(開場17:30)

## 基調講演

“すべての言語は平等です” — アメリカ・ミシガン州における日本語・英語のバイリンガル教育の実践から

講師: テッド・デルフィア氏 (Michigan Japanese Bilingual Education Foundation 会長)

## インタビュー

ロサ イセラさんに聞く “わたしのことば、わたしの道”

ロサ イセラ・ドミンゲスさん (サンタクルス日本語普及学校 教師)

聞き手: 松原 ルマ ユリアキズキ(映像作家)

## シンポジウム

“多言語の子どもたちの教育現場から”

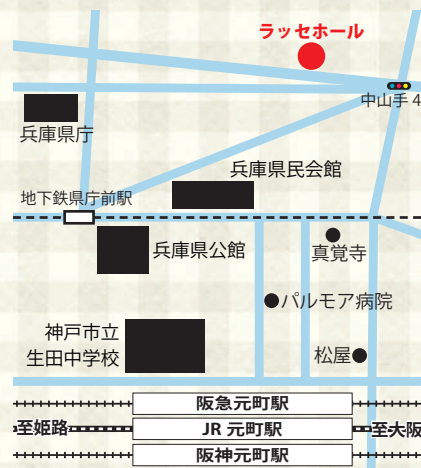
パネリスト: テッド・デルフィア  
朴亨植(仁川ハンヌリ学校 校長)  
秋宗 英生(兵庫県立国際高等学校 校長/  
兵庫県立芦屋国際中等教育学校 前校長)

モデレーター: 吉富志津代(ワールドキッズコミュニティ代表/大阪大学GLOCOL 教員)

コメンテーター: 落合知子(神戸大学 研究員)

ロサ イセラ・ドミンゲス

会場: 兵庫県教育会館ラッセホール リリーの間



〒650-0004 兵庫県神戸市中央区中山手通4丁目10-8

神戸市営地下鉄「県庁前駅」下車、徒歩5分

JR・阪神「元町駅」下車、徒歩8分

JR・阪急・阪神・神戸市営地下鉄「三宮駅」下車、徒歩15分

神戸高速鉄道「花隈駅」下車、徒歩15分

共催: ワールドキッズコミュニティ、関西母語支援研究会、アジアンブリッジ、大阪大学グローバルコラボレーションセンター、関西ブラジル人コミュニティ、ひょうごラテンコミュニティ、ベトナム夢KOBÉ、神戸コリア教育文化センター、たかとりコミュニティセンター

後援(予定): 兵庫県、神戸市、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会、公益財団法人兵庫県国際交流協会、公益財団法人神戸市国際協力交流センター

助成: トヨタ財団

実施・企画: 「2つ以上の言葉の狭間で生きる子どもたち」実行委員会

問い合わせ先: ワールドキッズコミュニティ 〒653-0052 神戸市長田区海運町3-3-8 たかとりコミュニティセンター内

☎ (078) 736-3012 ✉ kids@tcc117.org 🌐 <http://www.tcc117.org/kids/>

# ゲスト紹介

## テッド・デルフィア氏 プロフィール

「Michigan Japanese Bilingual Educational Foundation」(ミシガン日本語バイリンガル教育基金/MJBEF)創設者。ひのきインターナショナルスクール前校長。3児の父であり、2004年に妻と共に、日本語イマージョン幼稚園「ひまわり幼稚園」を設立。その後、「ミシガンで、日本とアメリカの文化を両方尊重し、体験できる居場所をつくりたい」と、公立学校としての双方向バイリンガル・イマージョン学校「ひのきインターナショナルスクール」も設立し、校長を務める。2014年に退任後、新たに「にじいろ日本語イマージョン小学校」など、リボニア学区公立小学校の設立を手掛け、MJBEFを通して、現在も同校のサポートを続けると同時に、将来的には、幼稚園入園から高校卒業まで一貫して学べるバイリンガル環境の実現に励む。



## ロサ イセラ・ドミンゲス氏 プロフィール

1983年生まれ、ボリビア サンタクルス出身。サンタクルス日本語普及学校教師。1994年11月、10歳の時両親が出稼ぎしていた日本の大阪府に引越す。日本語を理解しないため当初は小学校2年生に転入、中学校2年生で神奈川県へ。その後、県立高等学校へ入学、卒業後は外国語専門学校国際情報ビジネス学科へ入学し、2004年卒業。日本で商社に就職したが1年半で退職し、初めて故郷ボリビアへ帰国し、スペイン語を学び直す。その後通訳として仕事をし、現在はボリビアのサンタクルス日本語普及学校の教員の傍ら、大学で心理学を勉強中。



## にじいろ小学校

アメリカ・ミシガン州リボニア地区で英語と日本語のバイリンガル教育に取り組む公立学校として2014年に新設。未習得の言葉で教科を習いながら、第2言語の習得を目的とするイマージョンプログラムを英語と日本語の双方向で実施している。異なる言語や文化背景をもつ児童たちがお互いから学びあい、お互いの文化を尊重しながら、第2言語に慣れ親しむことをミッションとしている。

## 仁川ハンヌリ学校

韓国語の理解が十分でなく一般学校への進学及び適応が難しい帰国子女の子ども達と、多文化家庭の子ども達の生活適応支援を目的に、韓国初の小・中・高統合寄宿型多文化学校として2013年に開校。韓国全土の学校から推薦を受けた児童生徒が、在籍校へ復帰するために一定期間在学し、基本的な教育課程に加えて、韓国語の基礎を集中的に学んでいる。中国、モンゴル、日本、ロシアのバイリンガル教師と、韓国人教師がともに、生徒ひとりひとりの特長に合わせた多文化教育に力を注いでいる。

## 芦屋国際中等教育学校

日本全国初の国際中等教育学校として2003年に開校。言語環境や文化的背景の異なる子どもたちの相互啓発により、共に生きる心をはぐくみ、多文化社会に生きるにふさわしい人間形成を図ることを教育目標に掲げている。1学年の定員80名のうち、外国籍を持つ生徒30名、海外からの帰国生徒30名、一般の日本人生徒20名で現在30ヶ国の生徒が在籍。中高一貫の6年間を通じて、生徒が能力や適性に応じて弾力的に学んでいける教育活動を展開している。

